

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 地域の人々と笑顔で挨拶を交わし気軽に遊びに来ていただけるホームを目指します。2. 家族の協力のもと社会の一員として、なじみの人的・社会的環境の中で安心して暮らし続けていただくことを目指します。3. 地域の人々に非常時などの援助をお願いし、ホームからも行事に参加することを目指します。	○	地域密着型サービスとしての役割・取り組みについて、もう少し意識付けが必要と感じる。会議等で浸透させたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ステーションに理念を掲げ、全職員で理念の共有・実践に向けて取り組む努力を続けている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人々への理念の浸透は、少しずつではあるが前進している。	○	家族や地域の人々にも理念を伝え、一緒に取り組んでもらえるように努めている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行った際は、挨拶等を積極的に行い、顔なじみになれるように努めている。隣近所より、草取り作業の参加、花や野菜等を頂くこともあり、今後はホームで採れた野菜等もお礼に持って行きたい。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内にて、地域の人々を招き、祭りやその他の行事を開催・交流を図っている。また、防災訓練にも、地域の人々の参加あり協力を仰いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の老健にて介護教室等を開催、職員も参加している。町よりの委託事業として、地域高等学校の実習校の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を行うことで、見落とししていた点や改善点が表面化され、ホームの質の向上に大いに役立っている。また、プラスに評価された点も職員の自信につながる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やその時々の問題点・外部評価への取り組み・結果報告等行っている。第3者のアドバイスは、とても参考になっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者が、利用者の様子を見に来てくださったり、ホームの見学等もある。何かあれば電話による連絡・相談を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解・活用には、まだ至っていないのが現状である。	○	学ぶ機会を設ける。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあり得ないが見過ごされることがないように、職員間で注意を払い防止に努めている。月1回の全体会議で虐待防止について学ぶ。法人内で接遇委員会があり、定期的に接遇についての研修や様々な取り組みがあり、言葉掛けについても充分配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	説明を行い同意を得て署名・捺印を頂いている。契約書に記載している。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の意見・不満は、直接きいている。担当職員とじっくり話し合う場を設けている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	入居者の健康状態について月1回程度は家族に連絡報告している。金銭管理は職員が行い、出納時の記録・家族の確認を行っている。職員の異動に関しては面会時に報告したり、ホーム便り（2ヶ月ごとに発行）にて報告している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	地域推進運営会議に家族の代表が出席し、家族の意見が反映できる体制ができている。契約書、玄関入口に苦情処理窓口を明記している。また、直接対応している。年に1回の家族会でアンケートを行い意見を聞いている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月の会議では、経営者と職員が参加し、現状報告・意見交換を行っている。また、法人内の会議も毎月行われており、情報交換・意見交換の場となっている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要時は、勤務調整を行い柔軟に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体で適材適所の異動を行っているが利用者へのダメージを防ぐ為に、必要最小限の異動に抑える努力をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立て、法人内外の研修に数多く参加している。その内容は会議等で報告し、全員に周知している。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県やグループホーム協議会の研修に参加したり、他事業所との情報交換も行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。受講した研修内容を全職員に、報告している。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間で旅行・食事会・スポーツ等を通して、親睦・ストレス発散を図っている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>向上心を持つ為に、外部研修会や園内研修会に参加し、個人で得た知識を他職員に報告することでモチベーションを高めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に、家族や本人が見学し、ホーム内の雰囲気等を見て頂いている。また、入居前に訪問して家族・本人と話をしたり、状態の把握をしている。なじみの関係が早く築けるように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学に来て頂いている。そして、入居前に訪問し家族との話し合う場を設けている。また、法人内のケアマネを通じて、随時ニーズを聞いて応じられるように努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の優先順位を判断し、全職員への情報の共有・支援の統一に努める。入居後は、特に全職員で注意し、必要時は他サービス利用も検討している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来て頂き、雰囲気になじんでもらう。職員も顔なじみになれるよう訪ねている。法人内事業所を利用中ならば、他部署の職員の協力を得て、ホームに散歩に来て頂いたりして少しずつ馴染んでいけるよう努力している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な仕事を手伝って頂き、職員から感謝の言葉を添え心の満足を得られる様にする。入居者と職員の関係だけでなく、「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念のもと生活を共にするケアを提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を報告し、把握して頂いている。職員では対応困難な時には、家族の力をかりている。その中で、家族・職員・利用者が共に支え、協力し、スムーズで幸せな時間をつくることに努める。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係をできる限り把握した上で利用者と家族間をサポートできる立場であることを意識し支援している。面会時はゆっくり一緒に過ごせる場を提供。定期的に外出・外泊を依頼している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で取り入れたりしている。家族協力にて支援できている。馴染みの所へドライブや散歩等でも努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者のそれぞれの個性を理解した上で助け合い支え合い、相性の合いにくい人との人間関係に苦慮する時もあるが、職員間でおおらかに受け止め対処している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、入院先に見舞いに行ったり、家族との手紙や電話等で様子を伺っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を把握し支援に努めている。家族の協力も得ながら、できる限り応えられるように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報をもとに把握している。また、生活の中での新たな発見もあり、常に“気づき”の視点に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態・残存機能・これまでの習慣や生活歴等を把握したうえで支援している。申し送りノートに一人一人の様子を毎日記録して、全体の把握につとめている。毎月の会議では担当職員が一人一人について報告、全員でカンファレンスをする場を設けている。日中・夜間の申し送りを細かく行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意見・希望を取り入れている。計画作成担当者を中心に、職員で話し合いプラン作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しを行っているが、対応困難な場合は新たにプランを作り直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌や介護計画に添ったケアチェックシートの記録を行い、毎月の会議で話し合っている。必要時は、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリ、クラブ活動、夏祭り・敬老会・文化祭に法人全体として行う行事に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防機関へ消防訓練の要請を行い、年2回の防災訓練の実施。また、日々の防火対策に取り組んでいる。併設機関でボランティア活動と一緒に参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望や意見を尊重し、事業所・当法人にこだわることなく行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は活動していないが、今後協働していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を入居後も継続し、1ヶ月に1回家族に連絡し受診して頂いている。受診時には、かかりつけ医に情報提供書にて状態報告をしている。突発的な疾病時も家族に連絡し受診を依頼している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診時は、法人医師に相談し紹介状を準備。家族了承のうえで受診。その際は、情報提供書にて状態報告をしている。	○	内服でコントロールする場合は状態観察を行い、次の受診時に細やかに報告する。気軽に認知症について相談できるようなネットワークを持ちたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師により医療管理・内服管理を行い、家族・介護職員と連携し安全に行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人母体が診療所で、併設の介護老人保健施設とも連携をとり、相談できる体制がある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・法人医師・職員とで話し合い、又かかりつけ医にも相談し、その結果を大切にしたい。	○	必要になったら、定期的に家族との面談を行い、状態を報告し、家族の意向をその都度確認する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在1名対象者がいる。家族・かかりつけ医の協力で、職員一丸となって支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護面・看護面においての状態報告及び対応方法等、事細かに情報提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権を尊重し、意見を否定せず受容する接し方を行っている。接遇委員会による研修を取り入れ、日常的に全職員が確認し合い、プライバシーの確保に事業所全体で取り組んでいる。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや、希望が表せるような声掛け、雰囲気作りに努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険のない範囲でマイペースに過ごせるよう支援している。希望があればできる限り添えるように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人好みの身だしなみを心がけている。外出時は本人好みの服装やお洒落に気をつけている。美容室へは家族へ依頼し馴染みの店を利用している。また、毎月ホームにも美容師の散髪日をもうけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をしサポートしている。誕生日では、本人の好みのメニューを取り入れている。テーブル拭きや下膳の手伝い・料理のつぎ分けの手伝いを行ってもらっている。	○	朝食のみホームで全て作り、昼・夕食はメインを法人厨房より頂き、ご飯・汁物・小鉢をホームで作っている。以前のように全てホームで作れるように検討が必要。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む飲み物・おやつを日常的に楽しめるように行っている。ホームで難しいことは、家族に依頼している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、排泄介助を行っている。出来る限りトイレ排泄を支援し、オムツ使用を少なくする様にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、入浴日を固定しているが、別に希望があれば可能な限り実施している。ゆっくりと入浴を楽しめるように一人ひとりのペースに合わせた入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間気持ちよく安眠できるように、日中の活動を促している。排泄介助や巡視時には細心の注意・配慮をはらっている。一人ひとりのペースや体調に合わせて休息をとっている。午後、一時間程度の午睡を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、得意としていた事や習慣等を大切にしている。日常生活の中で役割を見つけ張り合いに繋げている。笑いの多い日々を送れるようにコミュニケーションも工夫している。外出等で気分転換を図っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて使えるように支援している。希望があれば、一緒に買い物に行く。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩など職員と一緒に出掛けられるよう支援し、家族の協力を得て買い物・ドライブ・外食等を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	基本的に遠出の外出は、家族に任せている。お花見・外食・ピクニック等、家族の協力を得て支援を行っている。近場の外出は、積極的に行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自由に電話することは難しいが、希望者には対応している。家族へ手紙を書く入居者への手伝いを行っている。外部からの電話等は、個人情報保護に配慮し取り次いでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を限定せず都合のつく時間を幅広く設けている。又行ってみたい雰囲気作りに努めている。心地良く過ごせる雰囲気作りに努めている。職員も家族と顔なじみになり、より良い関係が築けるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行っていない。ベッドからの転落及び転倒の危険性がある方にセンサーマットを使用。毎月の抑制廃止委員会でドクターを交え協議している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の必要性は充分にいかし、安全可能な時間帯の10時～17時はオープンに努めている。入居者が外に出たい希望がある時は、職員が付き添っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム内の事業所は見渡せるようになっており、職員は常に入居者の位置確認・見守りの徹底を行っている。職員は記録や調理などの業務の際は、常に入居者の側で行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の希望があれば、使用しているが、小まめに注意を払い様子を見ている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や怪我等の緊急事態が発生した場合事故報告書を作成し、反省の資料としている。また、事故報告書をまとめ、リスクマネジメント会議で検討している。勉強会・避難訓練を行い事故防止に努める。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを活用し、対応手順の把握を行っている。また、定期的に吸引器の取り扱いの勉強会を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。災害時は併設の職員の協力や、地域の人達の協力も得られる様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>入居時・面会時に考えられるリスクは説明している。その際は、家族に不安を与えないように注意している。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日、一人ひとり細やかな申し送り・カルテに記入を行っており一人ひとりの状態の把握が出来ている。その為、ちょっとした変化にも気づく事ができ、また、看護師・法人医師への連絡等は出来ている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書をカルテに挟んでおり、把握に努めている。また、フロアに一覧表を貼って確認後与薬している。副作用が心配な方、他症状等に特に要注意の方は、看護師から注意事項として受ける。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎日の排便確認を行っている。水分摂取を常に促している。ヨーグルトや食物繊維の多い食材を選んで調理している。レクや散歩・生活リハビリを通じて運動を促している。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>1日3回の口腔ケアの声掛けを行い、介助を要する入居者には介助を行う。週1回の義歯洗浄を行っている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>状態に応じ、糖分を控えた飲み物や食事量を調整している。入居者に合った調理方法や盛り付けを行い、定期的に法人内の栄養士に献立のチェックを依頼しアドバイスをもらっている。1日の水分摂取量確保の為、スポーツドリンクや好みのジュースを取り入れ、嚥下の状態に合わせ茶ゼリーも使用し水分量を確保している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	併設施設と同じマニュアルに沿って対応を行っている。年間研修計画で感染症予防について研修を重ねている。毎日、手すり消毒を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・はしは毎日、ハイター消毒している。湯飲み等は週1回、ハイター消毒している。食器類も使用前に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は木立で囲まれ駐車場も広い。庭には畑があり、季節の野菜や花を植えて親しみやすい雰囲気		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ・本棚等を置いて、家庭的で居心地の良い雰囲気を作っている。廊下には花々や動物の写真を飾っている。生花や観葉植物を飾り穏やかな雰囲気作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺にソファを設置し、一人で過ごしたり、入居者同士で過ごせる場所となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた毛布や枕等使い慣れた物で安 心して休まれている。洋服掛け等、自宅で使用し ていた物を置いている。思い出の写真等も貼りそ の人らしさを大切にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日中は出来る限り換気を行い、居室の空調は個人 に合った温度を設定している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、入居者に 合わせた作りではあるが、ADLの進行にともない 改善が必要な箇所もあるが、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレのドアはピンク色に区別されている。居室 が分からなくなる方には居室の入口に、本人の好 きな物を飾り目印にしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	自由な出入りは出来ないが、希望時や天気の良い 日は職員と共に外に出ている。畑に野菜や花を植 え、ホームの中や居室からも楽しんでもらってい る。また、草取り等入居者の出来る事を行ってい る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療連携体制を取っており、急変時等は併設の医師が24時間対応でき、医療面が充実している。また、ホームでの入浴が困難な方は、法人内の特浴を利用している。季節に合った行事を毎月計画し、家族や地域の方を招き絆を大切にしている。毎月の全体会議を研修の場とし、外部研修の報告や自助努力で感染・接遇・抑制等、常に研鑽を重ねている。